

Vol.001

## 色々な人のキャリアを

キャリアアップを目指す人へ

聞いてみよう!

公的機関又は一般企業 編



会社初の産休・時短勤務制度第一号  
周囲の理解があってこそその両立、  
諦めずに続ける努力を大切に…

株式会社シード 執行役員 水口みどりさん

### プロフィール

- ・大学卒業後、民間企業の広報部で2年半勤めた後、結婚を機に三島市に移住
- ・現在の会社では、社長秘書を皮切りに、個別企業の事業拡大・成長支援する部署で次長、部長、本部長、執行役員に昇格、現在に至る。
- ・家族構成：公務員の夫、新社会人の娘1人

### 水口さんが働く株式会社シードさんは、こんな会社です

- ・静岡県三島市にある、今年で創業 37 年の会社。商業施設開発と広告代理業の 2 本柱を中心に、企業コンサル・マーケティング支援や自治体のまちづくりなどを手掛ける企業。
- ・社員 61 人（グループ全体 250 人、パート、アルバイト含む）
- ・従業員向けの支援制度…産前・産後休業、育児休業、時間短縮勤務



#### 「売れる」ストーリーをつくる。

私たちは、あなたの商品やサービスが「売れる」ストーリーを、共に織り、歩む、マーケティングパートナーです。

### Q1. 今の会社に入るまでの経歴を教えてください。

大学卒業後、東京の企業で広報の仕事をしていましたが、結婚を機に静岡へ来ました。**結婚後も仕事を続けたい**という気持ちがあり、以前から興味があった広告代理店で社長秘書を募集していたので入社しました。直後にバブル経済が破綻、会社規模を縮小する中で残った社員が様々な仕事をこなさないとなくなるとなり、私も秘書業務と並行して新聞の取材や企画書の作成などをさせてもらうようになりました。



## Q2. 今は会社の中でどのような業務を担当されていますか

出産を経て復帰し、仕事を継続していました。  
当社では産休、育休ともに初のケースでした。

秘書以外の仕事が増えるにつれて企画推進部長、営業企画部統括部長と責任ある立場に変わってきました。現在は営業担当執行役員となっています。

自ら上を目指した、というよりは、長くキャリアを積むことでやれることが増えた結果と思っています。



## Q3. お子さんを出産された後の復帰はどのような感じでしたか

結婚して10年目に子供が生まれました。育休は1年間取り、復職しました。保育園探しには苦労しました。地元には延長保育をしてくれる保育園がなかったため、職場のある市に住民票を移し、職場に近い保育園に通わせました。

小学校もそのまま職場の近くに通わせましたが、



娘がうまくなじめず、結局自宅近くの小学校に転校することになりました。2年生になるときに時短勤務をはじめ、中学校入学を機にフルタイム勤務に戻しました。

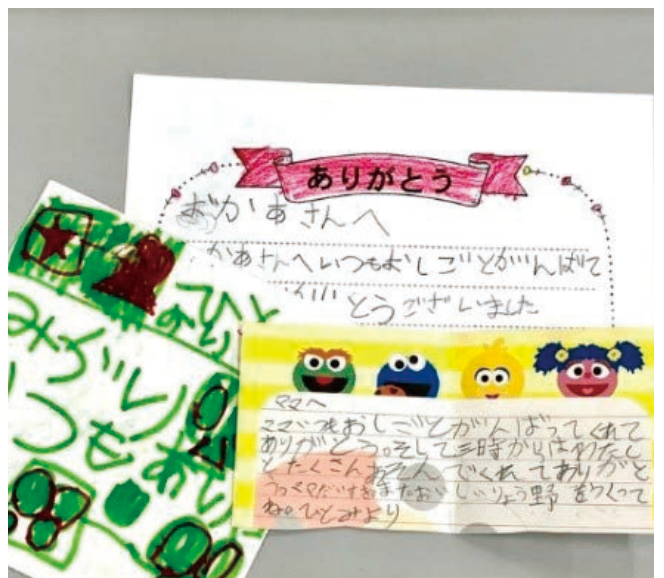
本当は、小学校の転校も含め娘が不安定な状態でもあったので、一度やめるつもりでいたんです。でも当時の社長（現会長）に「時短でもよいから、仕事を続ける意思があるなら続けるべきだよ」と言ってもらい、残って仕事を続けることにしました。それが今につながっていると思います。

## Q4. 家庭を持った時や出産後に仕事を継続するために家族と考えたこと、ルールなどありましたか。

私は、結婚や出産後も仕事を続けることが当たり前という考えだったので、夫とは特段話もせず、普段の会話の中で1年育休を取る、とか復帰する、といった話をしていました。

夫は私の意思を尊重する気持ちがありましたし、公務員で周りに女性が多いせいかわかりませんが育休取得が当たり前という意識だったと思います。ただ私が復帰してからは、平日はお迎えから娘が寝るまで基本ワンオペでした（笑）。土日はきっちりお休みをとっていましたが、平日早く帰ってきたのは、娘が生まれて1年くらいでしたね。

夫は積極的に育児をする方で、家にいる時はお風呂からおむつ、ミルクまで嫌がらず何でもやっていました。言わなくても何となく役割分担ができていたので、わが家はルールのようなものは特になかったな、と思います。また、義母が近くに住んでいたため、どうしても帰る時間が遅くなるような時は頼っていました。



## Q5. 家と仕事のバランスに関して自分で気にしているところは？特にお子さんとの向き合い方ははどうでしたか

娘が小学校 2 年生からは私が時短勤務だったので、娘が家に帰ると普通にお母さんがいるという状況でした。学校から近い我が家はお友達のたまり場になっていたの、多少私の帰りが遅くても、本人はさみしさを感じていなかったと思います。



保育園のうちは、私の仕事がどうしても終わらない時には、いったんお迎えに行き、会社で他の社員が遊んでくれている間に仕事をしていたこともありました。また、会社が販促を手伝っているショッピングセンターの CM に出させたり、イベントに連れて行ったり、大人の間に混ざって過ごすことが多く、その分自立するのが早かった気がします。5 年生くらいには一人で色々やれていましたね。

だからこそ、SOS を出しているときはきちんと向き合うようにしています。

中学校に入ってからは子ども、というより、対等な仲間という関係に近くなっていました。学校である程度は自分で解決するけれど、彼女なりの基準を超えたら相談をしてくるようになっていきます。

小さい頃に親の仕事を見る機会があって、それを会社がおおらかに受け入れてくれていたのは良かったと思います。

## Q6. 仕事を続けている中でだんだん立場が変化してきた時に、自身の意識がどう変化しましたか？

今の会社は中小企業のため、部署が変わることもあまりなく、ポストも少ない。私自身は時短勤務もしていたので、次長まではいったがその上に行くことは想定していませんでした。これ以上責任のあるポジションに上がることはなく、でも会社は辞めないかな、って。そんなところに突然上司から「部長になれ」と。

そこで意識が変わりました。

ポジションが人を作るといいます、部長になって初めて後輩も育てないとならない、売り上げも自分が中心になって考えていかなければいけないと、自覚ができてきた感じです。



## Q7. 自分の中にある働く目的とか、仕事を続ける意欲やモチベーションは何でしょう。

自分は 0 から 1 を生み出すのは得意でなく、1 を 10 や 100 にしたり、続けたりの方が得意なんです。それが楽しくて、結果として誰かの役に立っている事を実感できるとやる気が出ます。

育休中の 1 年間で、仕事に触れない期間が長くなった時、難しい文書が読めなくなってすごく危機感を感じました。その時は家でできる仕事を回してもらったりしてました。

職場復帰の時は、恐怖心より早く戻りたいの方が大きくて、特に不安は感じませんでしたね。



育休中に何かで会社に顔を出すと、同僚から「早く戻ってきてよ」と声をかけてもらうことがあり、それも会社にやる意識につながったと思います。なので自分も育休中の社員が会社に顔を出すと「いつ戻ってくる？」と声をかけています。

## Q8. 上司・同僚に対して一緒に仕事をする際に意識する事、意識してもらいたい事は？

基本的にうちの会社は社員一人ひとりの都合に合わせて柔軟に考えてくれようとする姿勢を持っています。これは、子育てだけでなく、病気や介護などもそうです。

社長が事あるごとに「うちの会社は男も女も関係ないから、みんなで仕事をやっていくんだよ」と言っており、社員もそういう気持ちでいると思います。個人個人が頑張るのだけど同じ部署の人がカバーするのが当たり前という空気があるので、うまくカバーができています。それでもつわりなどで体調が悪い事を、男性に理解してもらえない部分があったので、男性に妊娠中の体の状態を知ってもらう機会は必要だと思います。

そして、会社がいくら家庭に配慮してくれるといっても、家庭の事情はそれぞれなので、やはり個人個人がきちんと上司に相談するか、自分でコントロールする意識を持つことは大切だと思います。



## Q9. 後に続く方たちへアドバイスがあれば。

子育ては楽しかったです。機会があるなら子育てはするべきだなと思います。

そして困った事があればなるべく貯めずに言う。直属の上司に言いにくければ同性の上司に言って欲しい。仕事を続ける意思があるなら、続けられる環境を自分から作り出す努力も必要です。「やめるのはいつ

でもできる」というのは自分によく言っていた言葉なのですが、何かの拍子に「やめてやる〜」と思ってもやめるのはいつでもできると思って続けてみる。雰囲気的に会社が応援してくれるのであれば、あとは社員同士のコミュニケーションが大事かな、と思います。



## 【まとめ】

仕事にもプライベートに対しても前向きに続けてこられた水口さん。

結婚・出産を迎える前から自分の仕事に対する考え方をしっかり持って、ご本人が家族や職場に話をし、理解してもらっていたことが、実際にライフイベントを迎えた時に支えとなっていたのだと言う事が分かります。

周囲の理解と協力があってこそその両立。そのために自分自身が続けたいと思う事に対してあきらめずに続ける努力は大切です。

「やってみない？」と言われる事は臆せずまずはやってみる。頭で考えて、自分で線を引いてしまうのではなく行動することで次のアクションにつながるのではないのでしょうか。

自分から取り組む姿勢、何とかしようと行動を示すことで、自分も新たな経験ができるし、周囲の理解を得られる一歩となるように感じました。